生活の工夫カード (34)

親ががんになったことを、未成年の子どもにどのように伝え、支えるか①

□ 患者さん・ご家族からよくある声

・子どもになにをいつ、どうやって伝えるか
・「がん」と伝えて子どもは理解できるのか
・年齢差があっても、きょうだい一緒に伝える方がいいのか
・伝えた後の子どもの反応が心配
・子どもに伝えると周囲に話してしまうのではないかと心配
・療養中の自分について、子どもがどのように感じたり、考えたりするのか分からない

□ 大切なこと（言えることから伝える）

「し」：質問にわかりやすくこたえる

子どもが使う言葉を用いる

「り」：理解できるように子どもの年齢に合わせて説明する

『親ががんになったことを未成年の子どもにどのように伝え、支えるか②』をご参照ください

「た」：タイミングをみながら伝える

外見/日常生活/親子の習慣が変化する時 等

「い」：いつも通りの日常をなるべく保つ

子どもの生活リズム/習い事等を維持すること

□ 関連する資料のご紹介

・がん情報サービス「未成年の子どもがいるがんと診断された方へ：子どもとのかかわりを考えるときに」

・「がんはどんな病気？」（小学生以下子ども向け）
・「わたしだって知りたい！」　（小学生親対象）
・「だれも分かってくれない！」（思春期の親対象）
（ノバルティス ファーマ株式会社のホームページ「患者さんへの支援」からダウンロードできます）

当院の緩和医療科のHPにある動画・資料も参考にしてください

- **子どもと一緒に見れる動画**
①モヤモヤはだれにでもある　②(病気は)だれのせいでもない
- **10代の子ども向けリーフレット**

国立がん研究センター中央病院看護部　2025.5